

平成23年度 地区別懇談会開催



篠塚会長挨拶(東京会場・九段校舎)



渡辺学長挨拶(千葉会場・柏校舎)

二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊
平成23年11月30日発行
(第74号)

二松学舎大学父母会
(本部)東京都千代田区三番町6番地16
(事務局)千葉県柏市大井2590
〒277-8585 TEL.04(7191)8756

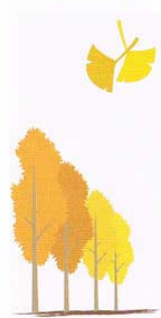
二松学舎大学柏事務課
題字は
故 観山貞廣常吉先生書



平成二十三年度二松学舎大学地区別父母懇談会が、十月一日(土)の高崎市・岡山市を始めとし、十月三十日(日)まで全国八都市(開催日程順に千代田区(九段校舎)・甲府市・柏市(柏校舎)・静岡市・山形市・郡山市)で開催された。

地区別父母懇談会は、父母会の主要事業の一つで、今年で一九回目を数える。今年も大学から学長・副学長・学務局長・学部長・学科主任・大学職員が各地に赴き、父母との懇談を行った。

懇談会の内容は大学の現況、本学の教育方針、学習状況・学生生活・就職状況等についての説明、個別相談であった。特に父母の関心が高かったのは、就職についてであった。九段校舎と柏校舎では、キャリアセンターによる「本学キャリアセンターの学生支援の内容について」と題する講演を行い、「大変わかりやすく参考になった」と意見が多く寄せられた。内容については、八〇九頁の「キャリアセンターの学生支援と企業への動向について」に譲りますので、ご一読ください。



十月一日(土)の群馬県、岡山県を皮切りに全国各地で懇談会が開催され、父母と大学教職員の交流が行われました。その内容を寄稿していただきました。

群馬会場

間々田 玲

十月一日土曜日、爽やかな秋晴れの中、地区別父母懇談会(群馬会場)が高崎ウシントンホテルプラザに於いて開催されました。大学より江藤文学部長、高柳柏事務部長、濱野教育学課程係長にご出席をいただき、父母会役員の三輪さん始め父母十七名の参加で行なわれました。

午前中は、始めに江藤文学部長より大学の現況について資料を見ながらお話しいただきました。震災以降の様子から始まり、大学では初年時から、いわゆる学習の基本である、読み・書き・そろばん」を大切にして教育していること、来年百三十五周年を迎えることなど、開校以来の理念を貫き、長い伝統の中で学生たち一人一人を大切に下さっていることが伝わってきました。

次に、濱野教育学課程係長からは、受付時にいただいた我が子の履修登録確認表の見方やGPAについて説明していただき、また、一年次よりキャリア教育に力を入れ学生たちの就

職への意識を高めているなど、父母にも大学についてより理解が深まるお話をいただきました。
昼食時には、おいしいお弁当を頂きながらDVDによるキャンパス紹介もあり、校内の様子が垣間見られました。

午後の個別相談では、就職活動について具体的にアドバイスをいただくことができ、有意義な一時でした。



岡山会場

徳永 旭生

今年の地区別父母懇談会は、東日本大震災の影響で十月になってから開催されました。

子供は三年生ですが、地元岡山での開催ということで夫婦で参加させていただきました。大学からは渡辺学長、井上教学事務部長がお越しになり、参加者八名でなごやかな雰囲気の中行われました。

まず大学の現況、学生生活についてお話があった後、意見交換となりました。皆さまの大学へ対する期待や希望、子供たちへの愛情が感じられる発言や微笑ましいエピソードが次々と出て、大変充実した時間を過ごすことができました。そして、その一つに渡辺学長、井上部長が丁寧にコメントされていたのがとても印象に残っています。また、個別の履修登録確認表も配布され、遠く離れて学生生活を送る子供がどんな授業を取っているか、取得単位はどうなっているかなどの情報を得ることもできました。

私もはじめて、岡山での開催ということで参加を決めたわけですが、正直なところ、ここまで細やかな配

慮をしていただけたとは思っていませんでした。来年、近隣の県で行われるのであれば是非参加しようと思つてお話し合つたほどです。
最後になりましたが、この様な機会を作っていただきましたことに感謝いたしますとともに、大学及び父母会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。



東京会場

星 照子

東京会場の父母懇談会は、十月八日(土)の午前十時より九段校舎の地下二階にある中洲記念講堂で開催されました。大学からは、吉崎一衛副学長をはじめ、江藤茂博文学部長・菅原淳子国際政治経済学部長・高野和基学務局長・渡邊了好国文学科主任・土屋茂国際政治経済学科主任が出席されました。



初めに吉崎副学長から挨拶があり、続いて文学部について江藤学部長から、国際政治経済学部について菅原学部長からそれぞれ説明がありました。その後、教育学課程の担当の方から学生の学習状況・学生生活について説明があり、さらに当日配られた履修登録確認表・成績一覧表の見方について丁寧に説明されたおかげで、



理解することができました。
その後、昼食の時間となり、地下の学食にお弁当が用意されてきました。お弁当を美味しくいただき日頃子どもが食べているものを味わうことができました。食後、一号館十三階のラウンジに移動し、眺望を楽しみながらコーヒーなどいただき、歓談をしました。武道館越しに今話題の建設中のスカイツリーを眺めることができました。

午後十二時三十分から、二〇二教室において、キャリアセンターの部



長による「本学キャリアセンターの学生支援について」と題する力のある講演があり、本学の高就職率は、一年次から親身に指導いただいているからだと確信しました。

事前の申込みはしていなかったのですが、個別の相談を受け、子どもの履修状況を確認することができ、安心しました。来年も参加させていただこうと思いい家路に着きました。最後になりましたが、二松学舎大学と父母会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



山梨会場

剣持 収

この春より息子が文学部にお世話になっております。十月十六日、甲府会場の地区別父母懇談会に初めて参加いたしました。秋の穏やかな日差しがふりそそぐ一室で楽しいひと時を過ごさせていただきました。

大学より高野学務局長と志村教学課長にご出席いただきましたが、父母会からは残念ながら私一人でした。しかし、この三人だけの懇談会が、私にとってはとても心晴れる時間でありました。

高野学務局長より本学の現況・ゼミナールの意気込み・就職状況の説明・志村教学課長より学生の学習状況・年間スケジュール・成績評価等のご説明を受けました。



通常、多くの保護者の方々が参加すれば、全体的話になるのだけれど、今回は私一人

のため、息子の大学での状況を詳しくお話していただき、とても安心しました。大学が一人一人の生徒に、これほど極め細やかな指導・配慮をしてくれていることに驚きもありました。本学の教職員の皆様方には深く感謝申し上げます。

食事をしながら見せていただいたビデオ。生徒の希望に溢れる表情、意欲みなぎる先生方の目。この大学の四年間で、息子は大きく成長するであろうと確信いたしました。百三十年を越える歴史において多くの優秀な人材を輩出し、国語教育における大きな役割を担った本学を立派に卒業する息子の姿を思い浮かべました。

今回は何より、高野学務局長、志村教学課長と心を開いたお話をたくさんできたことが大きな喜びであります。私も始めは一步步構えて参加したのですが、時間を忘れていつまでも話をしたい雰囲気でありました。とてもお忙しい中、甲府までお越しいただき、たいへんありがたく思っております。高野学務局長、志村教学課長に心よりお礼申し上げます。

静岡会場

秋元 利枝

十月二十九日土曜日、静岡グランドホテル中島屋にて開催された地区別父母懇談会に参加しました。菅原淳子国際政治経済学部長、山崎修教学課長補佐、勇健一柏事務課係長のご臨席を頂き、父母は十七名の参加でした。

静岡にお住まいの父母会役員の方より父母会活動の説明後、菅原学部長より、学習状況や学生生活についてパンフレットと合わせて詳しく説明してくださいました。少子化に対しても、多方面に働きかけ連携を図って、きめ細かい対応を心掛けている大学の様子が伝わり、とても感心致しました。

続いて、学生歴の説明、ゼミナール登録・卒業・進級に必要な単位について、用意されている息子の「成績通知書」「履修登録確認表」を見ながら、細かく説明してくださいました。今までは成績表を見ても、見方が分からず不安に感じていた部分も解消されとても良かったです。

ホテルの美味しい昼食をご馳走になりながら、映像によるキャンパス紹介もあり、充実した施設での生活を



を満喫しているだろうと感じました。昼食後の意見交換の後、希望者は個別相談もでき、始まったばかりの就職活動の事についても、とても丁寧に答えてくださり、安心する事が出来ました。ありがとうございました。

最後に二松学舎大学と父母会の益々のご発展を祈念申し上げます。

千葉会場

中嶋 美代子

十月二十二日(土) 柏校舎に於いて開催されました「地区別父母懇談会」に参加いたしました。昨年より息子が国際政治経済学部で柏校舎にお世話になっております。

柏校舎は、一く七号館の建物で構成されており、懇談会は二号館・二階の教室で開催され約四十六名の出席者で行われました。



はじめに、父母会長の挨拶があり、その後の学長挨拶では、「二松学舎大学は遊ぶ大学ではなく勉強する大学である。十年後、二十年后に大学で学んだ事が役に立ち、二松学舎大学へ入って良かったと思える大学である。」というお話しをいただき大変感動いたしました。

その後、各学部、学科の現況につ



いて説明を受けた後、昼食は「学食体験」という事で学食でお弁当を頂きながら出席者と交流を深める事もできました。

午後からは、就職に関する説明会へと進みキャリアセンターの学生支援について説明がありました。就職難の現在、就職は学年を問わず父母の最大の関心事である為、キャリアセンターの学生一人一人への木目の細かい対応の説明は大変参考になりました。今年は、大震災・原発事故等の大災害に見舞われ、今までの生活を見直す結果となつてしまいま



した。その結果が就職にも影響を与えるのではと不安になります。キャリアセンターに於かれましては、常に新鮮な情報を学生に提供して戴き、規模の大きな大学にはない、二松学舎大学だからできる密度の濃い対応を学生一人一人にお願いいたします。昨年は残念ながら出席できませんでしたが今回初めて出席しまして大学の現況が判り、個別面談では息子の学生生活を垣間見る事ができ安心いたしました。

最後になりましたが二松学舎大学と父母会の益々のご発展を祈念申し上げます。



平成23年度地区別父母懇談会を終えて

平成23年度 地区別父母懇談会学年別出席者数

実施日	曜日	開催地	開催会場	4年	3年	2年	1年	出席者数	実出席者数
10月1日	土	群馬県	高崎ワシントンホテルプラザ	1	2	3	6	12	17
10月1日	土	岡山県	ホテルエクセル岡山	2	2	1	1	6	8
10月8日	土	東京都	本学九段校舎	25	27	28	21	101	131
10月16日	日	山梨県	甲府ホテル	0	0	0	1	1	1
10月22日	土	千葉県	本学柏校舎	7	7	9	8	31	46
10月29日	土	静岡県	静岡グランドホテル中島屋	3	3	2	6	14	17
10月29日	土	山形県	山形国際ホテル	1	1	3	1	6	6
10月30日	日	福島県	チサンホテル郡山	2	4	2	2	10	15
		合計		41	46	48	46	181	241

※実出席者数欄は、両親が出席の場合は2人として計算。

山形会場

佐藤 利彦

去る、平成二十三年十月二十九日に山形市山形国際ホテルにて本学より吉崎副学長、高柳柏事務部長をお迎えし、父母六名と共に、和やかに懇談会が開催されました。

初めに、吉崎副学長より、平成二十四年に創立百三十五周年を迎える事、都心の九段で全員四年間学べるようになったこと、そのために別館も完成した事などの説明があり、歴史ある本学が都心の真ん中に位置し、近代的設備を持って学生を迎えることにより、近時学生の志願者数も増加傾向にある旨のお話がありました。また、高柳柏事務部長からは、最近の就職事情について詳細な説明があり、父母としては一番気懸かりな問題でもあり、熱心な質問が後を絶たない状況でした。本学においては就職率は文学部、国際政治経済学部両学部において九十%を超えており、相応の実績を挙げているとのことであり、就職においては、粘りが必要であり、ネットエントリーが駄目なら訪問してエントリーを位の積極性が相手を動かすとの説明を受け共感し



てまいりました。また、親としては有り難い(学生にとっては身につまされ)成績表の開示があり、早速その夜我が子に、特大の雷が落ちた事は想像に難くないところだと思えます。本日に有意義な一日でした。最後に、本学と父母会の益々の発展を心から御祈念申し上げます。

福島会場

根本 キヨ子

十月三十日、日曜日秋真っ最中チサンホテル郡山に於いて、地区別懇談会が行われました。

本学からは、吉崎一衛副学長と高柳幸雄柏事務部長にご出席をいただきました。父母出席者は、一年生から四年生まで十五名の参加で簡単な自己紹介も行われ、それぞれ親心が伺える心遣い感じられました。

三月十一日の東日本大震災時の大学の状況、学習の状況、又履修登録卒業要件、GPA制度の説明を吉崎副学長よりいただき、続いて、高柳柏事務部長より就職における学習状況、履修登録、通知書の説明もいただきました。

仲々就職状況も困難の昨今で、本校の就職率九十パーセント以上と言う状況も伺いました。我が子は、二松学舎大学は、少人数授業で教授と間近にあるため真剣になれると頑張っています。親心ながら我が子の学業修得の行方を見守りながら、最後まで努力すること、目標に向かってやり通してほしいと願ってやみません。



昼食後には、映像によるキャンパスの紹介部活動の様子など改めて我が子のキャンパスの素晴らしさを伺うことができました。父母からの質問等にも丁寧にお答えいただいたありがとうございます。最後に父母懇談会を開催していただいた事に感謝申し上げます。二松学舎大学と父母会益々の発展を心より祈念申し上げます。

例年、地区別父母懇談会は、六月七月にかけて実施しています。平成二十三年度は東日本大震災の影響により、実施時期を十月に変更して開催しました。十月一日(土)の群馬会場と岡山会場を皮切りに、十月三十日(日)の福島会場までの計八会場で開催し、無事終了しました。参加人数につきましては別表をご覧ください。

懇談会は初めに大学側から大学の現況について報告があり、続いて学生の学習状況・学生生活、就職状況等について説明があり、質疑応答を行いました。懇談は各会場とも熱心、かつ和やかな雰囲気であったとの報告を受けています。

なお、開催を予定していましたが大阪会場と石川会場につきましては参加希望の回答がなかったため、やむを得ず中止としました。ご了承願います。

来年度の地区別父母懇談会の開催地につきましては、改めて『父母会報』等でご案内いたします。今回参加されなかった父母の皆様、次回の父母懇談会には万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願いいたします。

各地区の父母懇談会にご参加された皆様、ありがとうございました。

キャリアセンターの学生支援と 企業の動向について

ただ今より、キャリアセンターが行っている学生への支援について説明いたします。

キャリアセンターの事務室は、九段校舎一号館の三階です。柏校舎は、大学の組織変更などがあったため、現在は常駐スタッフはおりませんが、毎週水曜日に、キャリア教育担当のキャリアセンター・特命教授が出勤して相談業務を行っています。

キャリアセンターのスタッフは八名で全学生の進路について支援を行っています。

さて、今年の本学卒業生の企業就職率は、九十・八%でした。日本の四年制私立大学の平均は七十八・二%です。このことからもお分かりのように、本学の卒業生は本当に頑張ったのです。

現三年生の就職活動について説明します。今年の十二月から企業の広報活動がスタートします。つまり、リクナビやマイナビなどに企業情報を有料で掲載することが解禁になるのです。そして、選考活動は四月か

らとなつていきます。しかし、広報活動をスタートする十二月が、実際は就職活動のスタートなのです。実際の会社説明会や筆記試験なども、二月一日頃にはスタートします。だからこそ、「今」から十二月までが、事前準備期間として大変重要なのです。三年生の就活は、短期決戦となります。

在学生を取り巻く就職環境は、数年前のリーマンショックの影響を脱したかにもえた直後の円高や、未曾有の東日本大震災により厳しくなることが予想されます。現四年生の求人は、前年比十一%増ですが、大半は製造業の技術職と留学生枠です。文系学生の求人が増えることは今後もないと考えるべきでしょう。企業の厳選採用も更に進むでしょう。大学生という特権はもはや遠い過去のものなのです。現状は、大学生の身分は、単に企業の採用試験に応募できる権利を得たにすぎないのです。勉学に励み、大学生活を充実させいかに自分自身が成長することができ

るかが、問われるのです。

配布した資料の中に、本学の就職講座にご協力いただいている十名の社長に「採用する学生にほしい資質・能力」のアンケート結果があります。ご覧ください。何も特別な項目はありません。コミュニケーション能力、情報分析力、チームマネジメント力、読み書きを含めた大学生としての基礎知識、積極性、元気の行動力、そして謙（マナー）。どれも二十歳を過ぎた大学生なら難しいものではありません。大半のことは、意識して大学生活を送ればどうというのではないのです。授業も受け身ではなく積極的に受けることです。後ろの席に座らない、遅刻をしないなど。学内で決められた場所以外は喫煙しない。ましてや吸い殻のポイ捨てなどは論外です。わが子が大学でどのような生活を送っているか、本人に確認することも親が支援できることです。家庭においても自分のことは自分でさせてください。甘やかしてはいけません。それが本人のためであり、就職活動成功の素です。ただし、就職活動がスタートしたら、我が子を信じて見守ることが大切です。決して「まだ内定しない」「そんな会社はしらない」「そんな会社はやめなさい」とは言わないでください。それこそ子供は深く

傷つきます。反対に「そんなに大変ならもう止めてもいいよ」も禁句です。就職活動は、大学卒業後の人生を切り拓く大切な過程なのです。どうか我が子を信じて温かく見守り、時にはそっと背中を押してあげてください。その時こそ「キャリアセンターに相談したら」と声をかけてください。我々キャリアセンターのスタッフは、とことん支援をします。最後の最後まで学生を諦めさせず、寄り添いながら支援してまいります。本学では、本学に来る求人票は全てパソコンから見るシステム（Job・it・(ジエイネット)）を導入しています。このシステムは一年生からの利用も可能です。三・四年生だけでなく一・二年生にもガイダンスで登録するように説明してあります。登録されたメールアドレスに、各学年対象の就職講座や行事案内を配信しています。早いうちから、自分の進路を考えることが大切なのです。最後に一つ。我が子の耳を見て下さい。男女ともにピアスはしていません。就職活動において、ピアスは不利になります。ましてや男子は厳禁なのです。

講師：本学キャリアセンター事務部長
日本私立大学協会就職委員
千葉県大学就職指導会会長
神河 秀春



海外研修報告

文学部 教授 芹川 哲世

今回の研修目的は、韓国近代文学と基督教の関連様相研究の一次資料である新聞・雑誌の未整理部分の細目を編むことであった。ソウル、大邱、釜山等の図書館及び基督教専門図書館を回ったが、この作業は一見単純に見えて緊張を強いられる作業であった。ここでは八月十七日慶尚南道南海郡の南海流配文学館で行われ、私も日本の流配文学について発表した流配文学国際学術セミナーについて報告する。韓国では高麗・朝鮮王朝時代から激しい儒者間の政争に破れた人物が配流に処され配所で様々な作品を残している。南海は特に朝鮮時代に金萬重という小説家が流された場所、昨年設立されたこの文学館は全国に配流された文学者を研究しその作品を発掘している。私もこの機会に日本の流配文学について調べてみたが、日本では全国に配流された人物は多く、配流された人物を主題にした作品はあるものの配所に於いて創作された作品は意外に少ない。ある程度まとまった作品を残しているのは、菅原道真と後鳥羽院くらいであろうか。それよりも



慶尚南道所在、南海流配文学館前庭にて

私が関心を持ったのは流罪地で大きな業績を残した法然と親鸞であった。韓国の人々は家康によって神津島に流された天主教信者おたあジュリア、甲申政変の失敗により日本に亡命し、北海道と小笠原に配流された金玉均に関心を寄せていた。私には今回の調査と関連して、大学者であり天主教信者であった丁若鏞三兄弟の配所での運命に思いが至り、今後の研究課題として重要なテーマが与えられた。

東日本大震災から半年が過ぎました。大学は後期が始まり、気持ちを切り替えられる学生がいる一方で、災害直後の反応が続いている学生も少なくありません。

事件や事故、災害に遭遇したり、それらの映像を見続けたりするところで、左記のような反応が生じる場合があります。

「こころの反応」
災害のことばかり考えたり、話したり、夢に見たりする。災害の話題を極端に避ける。緊張や不安、怒り。ゆううつ感や罪悪感、意欲低下。

「からだの反応」
頭痛、胃腸の不調。めまい、だるさ。不眠、過眠。

「行動の反応」
災害に遭遇した場所を避ける。外出や人を避ける。興奮して活動しすぎる。アルコールの量が増える。ミスや対人トラブルが増える。

このような反応が生じるのはごく自然なことで、性格の問題や精神の異常ではありません。だいたい、数日から四週間以内に自然におさまるものですが、大災害の場合、数カ月以上続く人も少なくあ

学生相談室

だより 74

カウンセラー 阿部 千香子

りません。災害から半年を過ぎると、回復に個人差が大きくなり、反応が続いている人は孤独感や引け目、焦りを感じる場合があります。

学生の多くはまだ若く、危機に對して敏感に心が反応します。どうぞ、しっかりと目配りをしてください。こういったときは、自分の気持ちを安心できる相手に話すことで楽になっていきます。しかし、無理に話すとかえってつらくなる場合もあります。話を無理に訊き出そうとはせず、穏やかな態度でそばにいて、支えになりたいと言おう気持ちを伝えましょう。話したいなら、安易な励ましや否定は控え、語るままに静かに聴きましょう。音楽を聴く、よい香りを嗅ぐなども、心身を落ち着かせてくれます。

長く続いている場合や日常生活に支障が出るほど反応が強い場合は、治療が必要になることもあります。その際は学生相談室へご相談ください。

最近のこのコーナーの話題は、厳しい就職環境、二極化する学生たちという、あまり楽しいものではなくて大変申し訳ないのですが、今回も残念ながら厳しい報告が中心となっております。

四年生の就職活動につきまして、依然として厳しい状況が続いています。

今年の四年生の就職環境は、長引く不況のみならず、震災による採用計画・採用日程の変更など、学生にとって大変厳しく辛い状況であったため、情情的には同情の余地ありですが、彼らの今後の長い人生を考えた時、今ここで頑張らせなくては、キャリアセンターに來た学生には叱咤激励をしておりませう。

幸いにも秋採用を行う企業も増えてきており、諦めずに頑張る学生には、必ず良い結果が待っていることを、キャリアセンター一同確信しております。

しかしながら、学生の動きを見ていると、すでに諦めている学生が多くなっているようです。夏休み最終日の九月十五日(木)の学内合同説明会、十月十六日(日)に幕張において千葉県内大学合同の企業説明会が実施されましたが、参加者是我々の想定より大幅に少なく、本学のみならず、他大

学の就職・キャリアセンター関係者一同、頭を抱えております。

「卒業後三年間は新卒扱い」ということが言われ、今頑張らなくても、何とかなるのではと思っている学生も見受けられますが、長引く不況・円高など、雇用が向上要素は、少なくともここ数年で、雇用環境が改善する要素は見られませう。

また、在学中に頑張らなかつた頑張れなかつた学生が、卒業して急に変わるものではないでしょう。就職環境は厳しくなることはあつても、好転することはずありません。「卒業後三年…」というのは、在学中に頑張った学生にのみ適用されると考えても言い過ぎではありませう。

諦めないで頑張る学生を応援するために、キャリアカウンセラーも配置して、現在進路決定報告のない学生に対し、電話確認を行っています。色々な悩みがあると思いますが、一度相談をしてみてもうでしょうか。

三年生の活動について紹介します。今年度より、就職活動の開始時期が十二月からとなります。

学生の中には、先輩より2カ月ゆつくりできるぐらいの感覚しかない

キャリアセンター

だより ②

ようですが、実状は全く違います。企業の方の話では、「スタートは二ヶ月遅らせますが、採用終了は、例年並みになると思います」という回答がほとんどです。ということは、活動期間が濃く短くなるということです。準備をしつかりしておかないと乗り遅れてしまいます。

「就職特別講座」を通じて、就職のハウツーだけでなく、心構えまで伝えておりますが、例年になく欠席者が多く、一抹の不安を抱えております。今後は、人事担当者や中小企業経営者をお招きしての模擬面接など、より実践的な展開を行っていきます。

また、キャリアセンターでは、現在三年生全員に對し、個人面談を行い、進路の確認・相談をしています。

よりよいスタートが切れるよう、精一杯支援をしていきたいと思っております。

一・二年生に對しては、春休みに引き続き、文部科学省就業力育成プロジェクト「就業力・ホップ・ステップ・ジャンプ」の一環として、夏休みに「キャリアデザイン講座」を実施しました。想定より少ない参加者ではありますが、出席者から

は「参加してよかった」という声が多く、今後に期待の持てる結果となりました。

暗い話題ばかりでは申し訳ありませんので、学生が頑張っている事例を紹介します。十月八日(土)に父母会の東京会場(九段校舎)において、「インターンシップ報告会」を実施しました。時間の関係で、当日発表は五名でしたが、インターンシップに参加した学生は二十四名おりました。

インターンシップとは、企業における就業体験のことでアルバイトとは違い、実際の正社員の業務を体験(疑似体験)することができきる制度です。

一週間から二週間程度の経験となりますが、参加した前と後では、学生の表情・考え方が目に見えて大きく変わっていきます。

学生のこのような変化は、大変頼もしく、私たちもこの仕事をやっていて良かったと感じられる瞬間でもあります。

とかく今の時代はインターネットなどのバーチャルな空間で「やったつもり」になってしまうことが多いですが、学生には、アルバイトでもボランティアでも何でも構いませんので、実体験を積んでいくことを心掛けてもらいたいと思います。

《酒井ゼミナール》

酒井ゼミでは、近現代中国の文化や現状を探るため、ここ数年の内に発表された文学作品を中心に翻訳し、それをもとに研究を進めています。

まず酒井先生が参考になりそうな小説や資料をピックアップし、みんなが翻訳していきます。

最近では、「回来吧妹妹」という短編小説を翻訳しました。中国の農村から北京に留学した妹の現状を心配し、北京にやってきた兄の話です。そ

《長谷川ゼミナール》

私達長谷川ゼミでは憲法を軸に学習を進めています。内容はテキストを輪読し、その部分を先生に解説していただき理解を深めていきます。このゼミでは条文や判例だけでなく歴史的背景も学習の対象になります。それは人権が生まれるまでの変遷が条文に表れているからです。条文の解釈は様々あり判例と学説の対立も必ずと言っていい程有るため学習し甲斐があります。

また、時事問題について小論文を書きそれを学生同士で添削し合うという活動もしており、憲法の学習と並行して社会を読み解く力も付けています。この活動はゼミ生同士がより深い関係を築ききっかけになっていると感じています。

私達が憲法を学習し研究することで保障されている権利や義務を知りそれが自分達の社会的役割を見出すことやより強く意識することへと繋がっていると思います。

学生数は十二人と多いですがやる気のある人が集まっておりそれぞれ

ゼミ探訪

これから世界を中心となっていく国なので、日本と中国の本当の良好な関係のためにも、私たちは近現代の中国の状況を正しく学び、

昨年、喫茶コーナーだけではなく「健康コーナー」の場所を設け、ご来店した時にリラククスしてほしいという気持ちから健康グッズを置きゆくりして頂きました。また、ディスプレイの折り紙の美しさに魅せられたお客様のご要望に答えて、臨時の折り紙教室になった微笑ましい光景もありました。

来年も「無料休憩所」で皆様とお会いできることを楽しみに創縁祭への参加が引き継がれていくことを心から願っています。

四年・役員 月永



卒業研究では政治や社会問題についても考えていきたいと思えます。もう一つの目標は、みんなで卒業まで中国に行くことです！

中国文学科四年 岩切 望



国際政治経済学部三年 三國 晃

二松学舎大学 創縁祭 2011

「父母会無料休憩所に参加して」

開催日 平成23年11月3日(木)・4日(金)
場所 九段キャンパス

今年の創縁祭は十一月三日、四日と開催されました。

テーマは「日射しく僕らのデンキを作れ！」と言う事で、今年の夏は節電の影響で「電気」が不足している中「日射し」のように暖かい雰囲気希望が差し込む様なテーマを実行委員会で作ったそうです。

子供達は各階におけるゼミの発表の場、研究会、愛好会、スポーツ部、中洲記念講堂でのイベントと様々な企画を考え「日射し」の様に若さがあふれて二日間頑張った活動いたしておりました。

その中で私達父母会は「無料休憩所」にて皆様にお茶、コーヒ、紅茶などの飲み物を提供し、二松学舎サービス株式会社から寄付して頂いた二松学舎のシンボルマーク入りの松風というお菓子でおもてなしをしました。

休憩所内には父母会活動の写真や、売店で販売されているグッズ等もご紹介させて頂きました。

創縁祭への参加は役員同士のコミュニティの場、そして個人

の得意分野を発揮できる場所でもあり毎年楽しく参加しております。

今年も企画は三年生が担当し、他の学年はサポートとしてお手伝いをいたしました。役員の中で例えば、お花を活けるのが上手な人、音楽が好きでBGMの担当の人、上流喫茶店の様にコーヒを美味しくドリップ出来る人、室内の装飾が好きな人など沢山のアイデアで暖かい家庭の雰囲気無料休憩所にあふれていました。

私達は今年も沢山のお客様に出会う事ができました。

来年度二松学舎大学を受験するご家族の方、新潟から日帰りで国際政治経済学部を受験する高校生、「漢文学を学ぶにはこの学校しかないから受験したい」という高校生、「孫の通う、東京の真ん中の九段の靖国神社の近くで武道館に隣接している大学一度来てみたかった」という祖父母、ホームカミングデーに参加されたOB・OGなど沢山の方がご来店下さり、私達は皆様との会話が次への父母会の活力になりました。



平成二十三年度 学位記授与式(卒業式)について

例年入学式・学位記授与式を挙行しておりました九段会館大ホールは三月十一日の東日本大震災で使用できなくなりました。このため、昨年度は諸般の事情を考慮し、学位記授与式並びに父母会主催の卒業パーティを中止としました。昨年度の卒業生には大変気の毒なことでしたが、ゼミナールの先生方から九段校舎の教室・研究室等で学位記を受け取り、巣立っていきましました。その姿は大変立派でした。

今年度は、学位記授与式が無事に挙行されることを祈るばかりです。大学が九段会館大ホールに代わる会場を用意されましたので、ここにお知らせします。

日時 平成二十四年三月十九日(月)
午前十時～

場所 新宿文化センター

〒一六〇一〇〇二二

新宿区新宿六―十四―一

最寄り駅

・JR・京王線・小田急線
新宿東口 徒歩十五分

・西武新宿線
西武新宿駅北口 徒歩十五分

・東京メトロ丸の内線
新宿三丁目駅 B3出口(伊勢丹前)
徒歩十一分

・都営新宿線
新宿三丁目駅 C7出口
徒歩十分

・都営大江戸線
東新宿駅 A2出口 徒歩七分

・東京メトロ副都心線
新宿三丁目駅 E1出口
徒歩六分

・東京メトロ副都心線
東新宿駅 A2出口 徒歩七分

○会場には駐車場はありませんので、ご了承ください。

正式には大学から案内が後日ありますので、そちらでご確認ください。

卒業アルバム作製に ご協力をお願いします

今年も父母会から卒業記念品として卒業アルバムを贈呈します。

大学の卒業アルバム委員会では、来春卒業予定の学生の卒業アルバム用個人写真撮影を行い、先日その撮影期間を終了しました。しかしながら、全員の撮影ができていません。撮影期間内に撮影されなかった方に卒業アルバム委員会からハガキによる連絡がいきます。そのハガキが届いた学生は、各自が撮影された個人写真をアルバムに掲載しますので、ぜひ写真のご提出をお願いします。写真サイズ・提出期限等は次のとおりです。

◆写真サイズ

縦4cm×横3cm

(証明写真でも構いません)

◆提出期限

平成二十三年十二月十五日木まで

◆提出先

九段1号館 教学課 又は
九段3号館 事務室

写真の提出は、窓口・郵送のどちらでも構いません。郵送の場合は、「教学課 卒業アルバム委員会」宛でお送りください。

提出の際は、写真の裏面に必ず学番号・氏名をご記入ください。

なお、期限までに提出いただけない場合は製作の都合により、氏名のみ記載となりますので、予めご了承ください。

編集後記

秋は足早に過ぎ、追々寒さに向かう季節となりました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今回の会報でご報告したとおり、地区別懇談会の開催が全国八会場で行われました。

群馬・岡山会場を始めに、二百四十一名の会員の皆様のご参加をいただきました。今回は御夫婦でのご参加が多く見受けられました。会員の皆様の関心の強さが感じられました。東京・千葉会場では午前中はもとより、午後も多く参加していただきました。ありがとうございました。

また、大学の「創縁祭」にも多くの方が参加をしていただきありがとうございました。

父母会のホームページをご覧になった事はありますか？父母会報ではお伝えしきれない学生の姿を見ることができます。会則や年間スケジュールなどのほか、奨学金についてなど色々な情報が満載ですので、ぜひご利用ください。またご覧になられましたら、ご意見ご感想など多数お寄せください。

